

# みんなの図書館

町立図書館 ☎0234-43-3039  
分館(狩川公民館内) ☎0234-56-3308



## 一般向

### 新刊案内

分館所蔵の本



#### 『あしたの華姫』 (富中 恵)

両国の地回りの親分に跡目争いが持ち上がる。娘のお夏を守るように命じられたヘタレの芸人月草が、“まこと”を見通す姫様人形お華と、西へ東へ駆け回る! (KADOKAWA)

- ・『きたきた捕物帖』(宮部 みゆき)
- ・『カインの傲慢』(中山 七里)
- ・『夜の向こうの蛹たち』(近藤 史恵)
- ・『ヒポクラテスの試練』(中山 七里)
- ・『不良』(北野 武)
- ・『生かさず、殺さず』(久坂部 羊)
- ・『漣のゆくえ とむらい屋颯太』(梶 よう子)
- ・『きものが着たい』(群 ようこ)
- ④『湯けむり食事処 ヒソップ亭』(秋川 滝美)
- ④『これからのテレワーク』(片桐 あい)

## News

### 図書館からのお知らせ

★イベント等に関する最新の情報はHPからご確認ください!



## 児童向

### 新刊案内

分館所蔵の本



#### 『きつねのしっぽ』(おくはら ゆめ)

きつねは、しっぽを大切にしています。手入れは一日三回。松葉のくしで毛をとかし、黄色の羽でなでてから、仕上げに花を飾ります。ある日、落とされたくしを探しに、どしゃぶりの雨の中、出かけたきつねは…。

(小峰書店)

- ・『ウサギとぼくのこまった毎日』  
(ジュディス・カー/作・絵)
- ・『虫のしわざ図鑑』(新開 孝/写真・文)
- ・『パンダーウィックの四姉妹』(ジーン・バズオール)
- ④『じごくにアイス』(ナカオ マサトシ/著, 澤野 秋文/絵)
- ④『パンダ オリンピックたいそう』(いりやま さとし)



### 今月のおすすめ本

回天の魁士・清河八郎の『西遊草』が復刻!

#### 『西遊草』(清河 八郎)



絶版になっていた清河八郎の旅日記がクラウドファンディングにより復刻しました! 今年は清河八郎生誕190年の節目の年。八郎の人となりを感じられる貴重な資料です。(岩波文庫)

★清河八郎記念館で特別展を開催中!

■問合せ: 清河八郎記念館 ☎0234-57-2104

※月曜休館

# おんがいのしっぽ

## な ん ど き

飛鳥の学校に赴任して間もなく、日暮れになると駐在さんが自転車で沿岸道路を巡視し、岩の上で釣りをしてる人を見つけるとメガホンで「日没です。宿に帰りましょう」と呼びかけているのに気付いた。

去年の夏、暗くなってから勝浦港に帰る遊覧船が岩に当たって転覆した事故の後、釣りは日没までという決まりになっているのだと言う。

ある日、親しくなった旅館の女将に、お巡りさんに注意される前に帰ればいいのに—という趣旨のことを言うと女将が意外に強い語

文・絵 樋渡 浩さん

調で反応した。

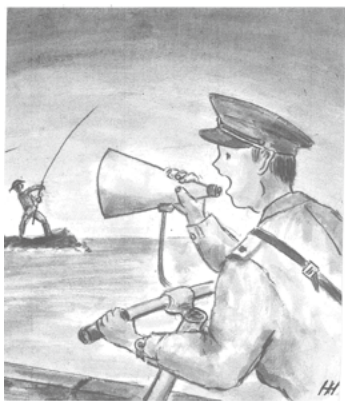
「ナンドキは魚が動きますから—」

解せない顔の私を見て女将が、ナンドキは薄明の頃の意で、払暁のそれをアケナンドキ、夕闇が迫るころをクレナンドキと言うのだと教えてくれた。

釣り人にとってナンドキは魚が動くこたえられない時間帯だったのである。

アケナンドキにクレナンドキ、雅な響きのことばである。

古語の名残かと思ひ辞典に当た



ったが、この意味では載っていない。島のことば—方言—と捉えてよさそうである。